

① 研究課題名	認知症の有無における脊椎椎体骨折患者の疼痛関連因子の比較	
② 実施予定期間（当院）	2020年 10月 1日 ～ 2021年 3月 31日	
③ 対象患者・疾患等	当院整形外科にて骨粗鬆症性脊椎椎体骨折と診断され、保存療法にて入院加療をした者	
④ 対象期間（組入れ期間）	2018年 3月 1日 ～ 2019年 11月 30日	
⑤ 実施診療科（部門）	リハビリテーション室	
⑥ 研究責任者	リハビリテーション室 作業療法士	古株 竜也
⑦ 研究全体についての概要	<p>我が国における脊椎椎体骨折の有病率は、70歳代で25%、80歳以上で43%以上である。治療方法は、保存療法が選択されることが多く、受傷後3か月の内に疼痛が有意に軽減するが、3か月以降は有意な軽減はみられず、残存することも多い。疼痛の軽減に対する阻害因子には、破局的思考が関連していることがある。そのため、破局的思考に留意して、理学療法・作業療法介入を行うことが重要である。また、70歳以上の高齢者は、認知機能低下を有する割合が高い。そのため、脊椎椎体骨折患者のうち、認知機能低下を有する患者の疼痛や、疼痛の関連因子である破局的思考について留意する必要がある。認知機能正常群に比べ、認知機能低下群は疼痛の閾値が高く、疼痛を感じにくいという報告がある。しかし、認知機能低下のみられる脊椎椎体骨折患者の破局的思考についての報告は、我々の渉猟する限り、報告されていない。よって、本研究の目的は、認知症の有無における脊椎椎体骨折患者の疼痛関連因子の比較とした。</p>	
⑧ 研究実施場所	当院 リハビリテーション室	
⑨ 個人情報の保護について	連結可能匿名化	
⑩ 利益相反	なし	
⑪ 問い合わせ先	済生会呉病院 リハビリテーション室 古株 竜也	
⑫ 連絡先	電話番号：0823-21-1601（代表以外の場合は変更すること）	
	FAX 番号：0823-24-5274（代表以外の場合は変更すること）	